

# 120年の歩み

2025(令和7年)  
創立120周年

2017(平成29年)  
国立研究開発法人  
森林研究・整備機構に名称変更

2015(平成27年)  
国立研究開発法人  
森林総合研究所に名称変更  
森林保険センターを設置

2008(平成20年)  
森林農地整備センター(現・森林  
整備センター)を設置

2007(平成19年)  
林木育種センター  
と統合

2001(平成13年)  
独立行政法人  
森林総合研究所が発足

1988(昭和63年)  
森林総合研究所に改編

1978(昭和53年)  
茨城県笠崎村(現・つくば市)の研究  
学園地区に本場移転。跡地は  
都立林試の森公園(約12ha)に



筑波研究学園都市への移転当初の航空写真

1952(昭和27年)  
大阪支場を京都支場に名称変更



1956年完工した京都支場庁舎

1947(昭和22年)  
四国支所の前身となる高知支場が発足  
関西支所の前身となる大阪支場が発足



1964年完工直後の四国支場庁舎

水と雪の試験地として山形県に1935年開設された  
釜淵試験地の庁舎



1922(大正11年)  
東北支所の前身となる  
仙台支場が発足

1922(大正11年)  
九州支所の前身となる  
熊本支場が発足



1954年に完工した熊本支場庁舎

1921(大正10年)  
多摩森林科学園の前身  
となる帝室林野管理局  
林業試験場が発足



帝室林野管理局林業試験場の庁舎

1908(明治41年)  
北海道支所の前身となる  
野幌林業試験場が発足



野幌林業試験場の志分別庁舎(江別市)

1905(明治38年)  
森林総合研究所の前身となる  
林業試験所が発足

1904(明治37年)  
『林業試験報告』(現『森林総合研  
究所研究報告』)第1巻発行

1900(明治33年)  
東京府目黒村・平塚村に  
目黒試験 苗圃開設



森林総合研究所の前身となる林業試験所の発祥地と  
なった目黒試験苗圃

1910(明治43年) 林業試験場に名称変更



農商務省山林局林業試験場の正門

今年2025年に創立120周年を迎えた森林総合研究所。その前身は、日本の近代の幕開けとなった明治時代にまでさかのぼります。1905年に、西欧諸国に倣いつつ、森林経営や林業技術の近代化を進めるにあたり、当時の農商務省(現在の農林水産省と経済産業省の前身)山林局管轄による林業試験所としてその歩みを開始することになります。

近代林業の知見に基づく林産業振興のための研究機関としてスタートした森林総合研究所は、創立以来、時代の要請に応えるために、たとえば、治山事業や流域管理の研究、防災林や水源かん養林の研究、育種、病害虫防除、土壌改良、間伐技術といった多岐にわたる実証研究を継続的に続けてきました。

やがて、第二次世界大戦後の復興を支えるための林産業の拡大、高度経済成長期の需要の高まりを受けての木材の輸入自由化・国内林業の低迷の時代をへて、昨今は森林環境保全・生物多様性保全・地球温暖化対策の重要性が強く認識される時代へと移り変わってきました。

「自然との共生」や「持続可能性」が求められる中、「森林生態系」「林産業」「木材・バイオマス」「林業用樹木の品種改良」などを包括的に扱う研究機関として、これからも長期的な視点に立った調査・研究を続けていきます。